

## 一般演題 (口演)

## Ⅲ7卒中O-122-2

## 超急性期に搬送される脳出血の予後

<sup>1</sup>脳血管研究所美原記念病院 脳卒中部門、<sup>2</sup>脳血管研究所美原記念病院 医療情報部、  
<sup>3</sup>脳血管研究所美原記念病院 情報管理部

神澤 孝夫<sup>1</sup>、高山 洋平<sup>1</sup>、佐藤 麻美<sup>2</sup>、平田 奏<sup>2</sup>、小林 真理子<sup>2</sup>、関 琴里<sup>2</sup>、美原 盤<sup>3</sup>

【目的】虚血性脳血管障害に対しては血行再建療法 (rt-PA 静注療法、血管内治療) が施行されるが、出血性脳血管障害に対しては機能的改善を目的とした治療は現状ではない。そこで、超急性期に搬送される出血性脳血管障害の臨床像を後ろ向きに解析した。【方法】平成24年4月1日から平成25年3月までの当院に急性期に搬送、入院となった連続症例を対象とし、発症から来院までの時間別に、退院時の modified Ranking Scale(mRS:0-1) の割合、死亡率を調べた。【結果】虚血性脳血管障害は413例であり、発症3時間以内 {112例 (26.4%)、mRS < 2:36.6%、死亡率:5.4%}、3-4.5時間以内 {19例 (4.5%)、mRS(0-1):36.6%、死亡率:0.0%}、4.5-8時間以内 {40例 (9.4%)、mRS(0-1):32.5%、死亡率:3%}、8-12時間以内 {27例 (6.4%)、mRS(0-1):44.0%、死亡率:11.1%}、12-24時間 {24例 (9.9%)、mRS(0-1):50.0%、死亡率:0%}、1日以上 {130例 (30.1%)、mRS(0-1):38.6%、死亡率:0%}、不明 {25例 (5.9%)、mRS(0-1):38.6%、死亡率:0%} であった。一方、出血性脳血管障害 (クモ膜下出血を除く) は113例であり、発症3時間以内 {66例 (58.4%)、mRS(0-1):7.8%、死亡率:12.1%}、3-4.5時間以内 {2例 (1.8%)、mRS(0-1):0.0%、死亡率:50.0%}、4.5-8時間以内 {9例 (8.0%)、mRS(0-1):11.1%、死亡率:33.3%}、8-12時間以内 {7例 (1.2%)、mRS(0-1):28.6%、死亡率:25%}、12-24時間 {16例 (14.1%)、mRS(0-1):18.1%、死亡率:0%}、1日以上 {12例 (10.6%)、mRS(0-1):25.0%、死亡率:0%}、不明 {1例 (0.9%)、mRS(0-1):100%、死亡率:0%} であった。【結論】超急性期出血性脳血管障害は、虚血性脳血管障害に比べ、重症で発症早期に搬送される割合が高く、予後が不良である。